

国際物流基幹ネットワークの構築

～効率的で環境に優しい国際・国内物流の実現～

参考1

背景・課題

- 国際標準コンテナ車(44t、4.1m)に代表される国際物流に対応した道路ネットワーク不足
 - ・橋梁等のボトルネックが存在するため、迂回や荷物の小分け輸送を強いられる。
 - ・従来は要請ベースで重さ・高さ道路の指定をしてきており、国際物流戦略の観点に欠ける。
- 国際物流に対応した道路が明示されていない
- 大型貨物車が生活道路に流入し、安全や環境面で問題となっている地域も多い。

施策のポイント

- 国際標準コンテナ車が重要な港湾等と大規模物流拠点とを積み替えなく走行できる道路ネットワークの構築・明示。(=重さ・高さ指定道路の拡大)
- ボトルネック対象箇所を確定し、18年度以降に対策を実施。
- 特に、スーパー中枢港湾に係るボトルネックについては、5年以内に解消を目指す。

効果

- 国際標準コンテナ車の通行可能道路の拡大
- 25t、4.1m以下の車両の許可不要道路の拡大(未指定道路は20t、3.8mまで)



- 国際標準コンテナ車対応道路整備による国際競争力の強化
- 車両の大型化に対応した道路整備による輸送効率化の実現、環境負荷低減
- 効率的な物流拠点の立地促進
- 物流事業者の申請負担軽減
- 許可不要道路の拡大による大型貨物車の通行のより望ましい道路への誘導

国際物流基幹ネットワーク構築イメージ

